

大津企業景況調査報告書

(第98回)

令和4年 7月 ～ 9月期 実績

令和4年10月 ～12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について
(令和4年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	12社	10社	83.3%
卸 売 業	13社	8社	61.5%
小 売 業	25社	18社	72.0%
サービス業	31社	21社	67.7%
建 設 業	19社	15社	78.9%
合 計	100社	72社	72.0%

3. 調査期間

調査対象期間は令和4年7月～9月とし、調査時点は令和4年9月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感は全体で改善が一服。業種によりまだら模様

令和4年7月～9月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期に大幅改善した▲6から今四半期は▲7となり改善が一服した。業種別では、前期に一旦改善して+12となった小売業が、今期は一転して大幅悪化して▲11となり、製造業も▲13から▲20へと悪化した。一方で、卸売業は▲33から±0へ、サービス業は▲17から▲5へと改善しており、建設業は±0を維持している。このように業種により業況判断は明暗が分かれる状況となっている。

先行きの業況判断DIは、全体では今四半期の▲7から来四半期は▲4へと小幅改善するとみている。建設業が今期の±0から+20へと改善すると見ているほか、今期に▲11へと悪化した小売業も来期は+6へと再びプラスに転じるとみている。一方で、卸売業は±0から▲13へ、製造業も▲20から▲30へ、サービス業も▲5から▲14へ悪化するとみており、業種により先の見通しも2極化する状態となっている。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、全体では改善が一服。業種により改善と悪化が分かれる

「前年同期比でみた業況判断DI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、全体で改善が一服したが、卸売業で+33ポイントの改善で±0へ、サービス業で+12ポイントの改善で▲5となった一方で、小売業は23ポイント悪化し、▲11へと再びマイナスに転じ、製造業も7ポイント悪化で▲20へとマイナス幅が拡大した。

□ 売上DI（前年同期比）は、建設業を除いた業種で改善し、特に製造業、卸売業で顕著

「前年同期比でみた売上DI(全体）」（「増加」－「減少」）は、前四半期の+2から今期は+4へと小幅改善した。業種別では、前期に大幅改善した建設業が+29から▲27へと大幅悪化した。一方で、製造業は+13から+50へ、卸売業も+17から+50へと大幅改善したほか、サービス業も▲22から▲5へ、小売業も▲12から▲5へとマイナス幅が縮小した。

□ 採算DI（前年同期比）は、全体で原材料高の転嫁遅れ等で足踏み状態

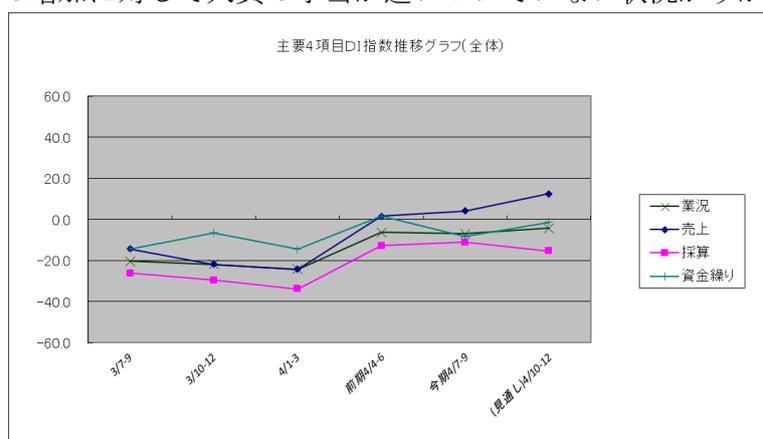
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲13から今期は▲11へ原材料高の転嫁遅れ等で足踏み状態となっている。小売業では±0から▲11へ、製造業も▲25から▲30へと悪化した。一方で、サービス業は▲22から▲5へと改善の兆しが見えている。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、全体として悪化し、特に建設業、小売業、製造業で顕著

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の+2から今期は▲8へと再びマイナスに転じた。特に前期改善した建設業では再び大幅悪化し、小売業でも製造業でも悪化した。一方で、サービス業では改善している。多くの業種でコロナ融資の返済猶予期限が到来し、返済負担の増加が資金繰りに影響している状況がうかがえる。

□ 従業員DI（前年同期比）は、全体で人手不足感が強まり、特に卸売業、サービス業で顕著

「前年同期比でみた従業員DI(全体）」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の+24から今期は+33へと人手不足感がさらに強まっている。特に卸売業では±0から+63と急激な逼迫を示している。サービス業も建設業も高止まり状態となっており、業種によって売上の回復による仕事量の増加に対して人員の手当が追いついていない状況がうかがえる。

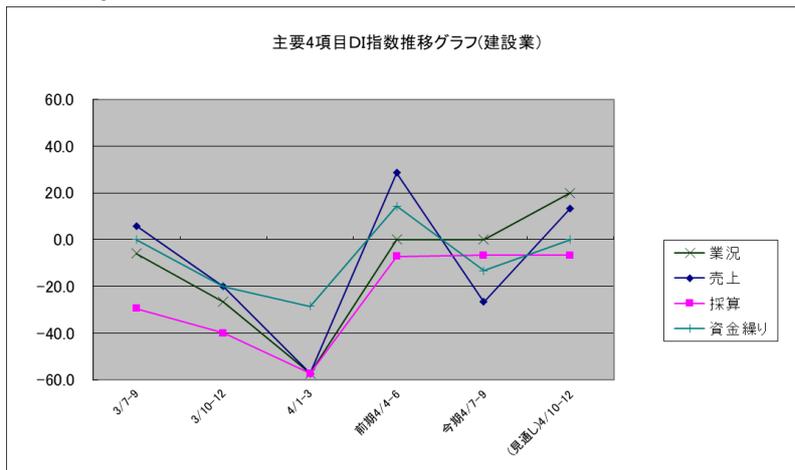


建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の±0 が今四半期も横ばいである。個別指標をみると、「売上」は前四半期の+29 から今四半期は▲27 へと大幅に悪化し、再びマイナスに転じた。「採算」については▲7 を維持しているが、採算の「水準」については+50 から+27 へとプラス幅が縮小している。「資金繰り」についても、前四半期の+14 から今四半期は▲13 へと悪化しており、厳しい状況は現場の声からも聞こえてくる。

ウクライナ情勢やコロナ禍によるグローバルな物流の乱れによる材料の入手難による作業停滞や、円安による材料価格や石油価格の高騰などマイナス要因の影響もあり、売上や利益水準が伸び悩む中、外注先への支払い・従業員の給与支払いに加えて、コロナ融資の返済も始まり、資金繰りに苦慮している様子が見えてくる。

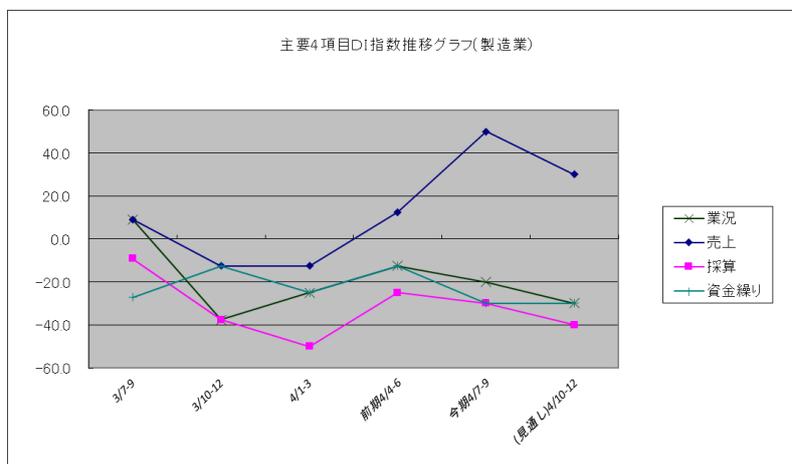
「従業員」は前四半期の+50 から今四半期は+53 となり、慢性的な人手不足に苦勞している様子が見えてくる。



製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲13 から今四半期は▲20 へと悪化したものの、個別指標をみると、「売上」は前期の+13 から+50 へと大幅に改善している。「採算」については▲25 から▲30 へと小幅悪化しており、原材料高の価格転嫁が遅れているとみられる。採算の「水準」についても+13 から±0 へと悪化しており、仕事量の増加の割には利益が出ていない状況がネガティブな業況判断に反映しているものと思われる。「資金繰り」についても▲13 から▲30 へと悪化しており、コロナ融資の返済負担の増加に加えて、全体として利益なき繁忙状態になっている様子もみえてくる。

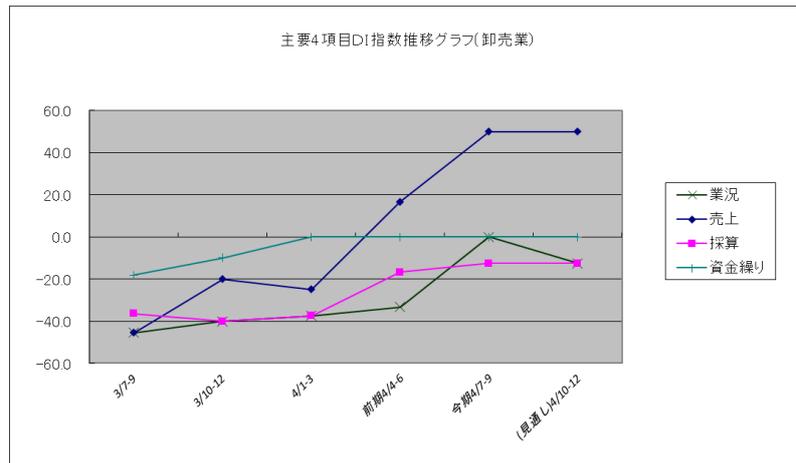
「従業員」については、前四半期の+25 から今四半期は+20 となり、人手不足感は若干緩和してきている状況が見えてくる。



卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲33 から今四半期は±0 へと大幅改善した。個別指標をみると、「売上」は前四半期の+17 から今四半期はさらに大幅改善して+50 となり、プラス幅が拡大した。「採算」についても、前四半期の▲17 から▲13 へ改善している。「資金繰り」については、今四半期も引き続き±0 を維持しており、安定した状況が続いているとみられる。

「従業員」は前四半期の±0 から今四半期は+63 と大幅に上昇している。コロナ禍の収束の兆しも見える状況から、人流や物流の動きが活発になる中、売上増加と相まって人手不足が急速にクローズアップしてきたものと思われる。



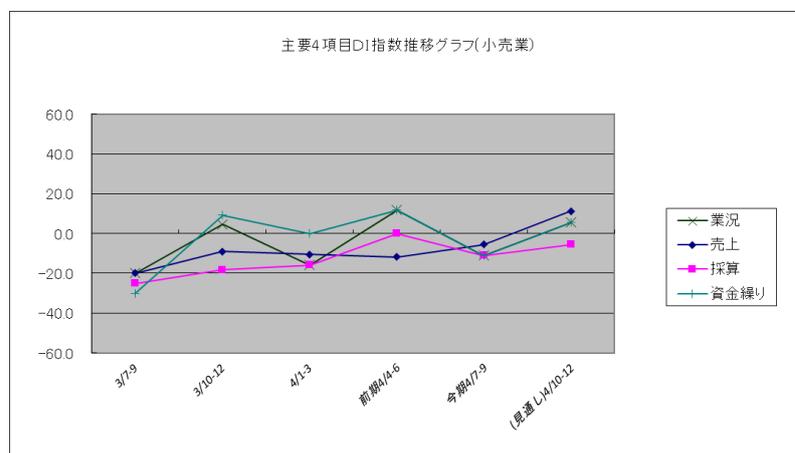
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+12 から今四半期は▲11 へと大幅に悪化し、再びマイナスに転じた。個別指標をみると、「売上」は▲12 から▲6 へと小幅改善した。「採算」については±6 から▲11 へ、また採算の「水準」についても+18 から▲16 へと悪化しており、売上の小幅改善より採算面での悪化が業況判断 DI の悪化につながっていると思われる。

原材料価格の高騰や最低賃金の上昇など経営面での負荷の増大に悩む中、一方では何とか先行きに希望を見出そうという動きが出てきていることも現場の声からうかがえる。

「資金繰り」は前四半期の+12 から今四半期は▲11 へと一転して悪化しており、コロナ融資の返済開始による負担増加の影響が表れてきている様子が見て取れる。

「従業員」は前四半期の+12 から今四半期は+11 となり、人手不足感に変化は見受けられない。

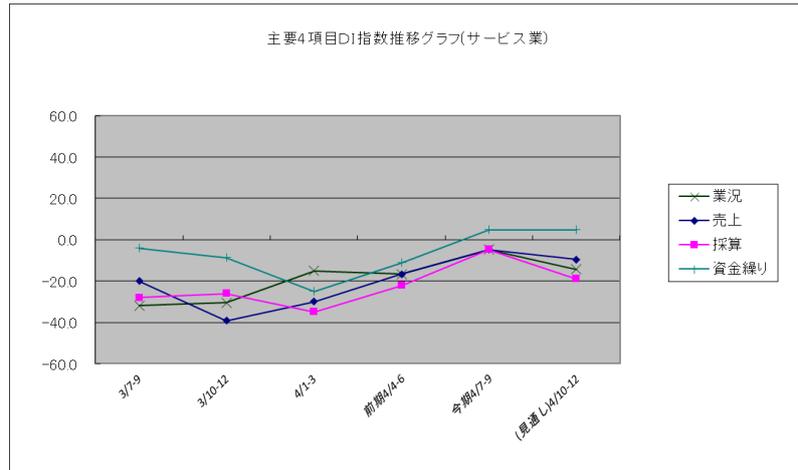


サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲17 から今四半期は▲5 へと小幅改善した。個別指標をみると、「売上」は▲17 から▲5 へと改善しており、「採算」も▲22 から▲5 へと改善している。「資金繰り」については、売上と採算の改善もあり、前四半期の▲11 から今四半期は+5 へと大幅に改善し、プラスに転じているものの、コロナ融資の返済開始に対する負担増を懸念する現場の声も聞こえてくるほか、他業種と同様、材料コストの増加に頭を痛めている現状もうかがえる。

コロナ禍の収束の兆しもあり、売上拡大の動きも出てきた一方で、エネルギー費や材料価格の上昇など、依然として厳しい状況が続いている状況がうかがえる。

「従業員」は前四半期の+22 から今四半期は+33 となり、売上の増加に伴って、仕事量が増加した分、さらに人手不足感が高まってきているとみられる。



来四半期（3ヵ月後）の「業況」DIは、今四半期の▲7 から来四半期は▲4 へと小幅改善するとみている。個別指標をみると、「売上」は+4 から+13 へと改善するとみているものの、「採算」については▲11 から▲15 へと小幅悪化するとみている。「従業員」については+33 から+31 へと、人手不足状態は継続するとみている。滋賀県全体の有効求人倍率は1倍付近を推移しているものの、業種によって状況は異なっており、引き続き注意が必要である。

業種別の「業況」DIでは、今期、大幅改善した卸売業は今期の±0 から来期は▲13 へと再び悪化し、サービス業も▲5 から▲14 へと悪化するとみている。一方で、建設業は±0 から+20 へ、小売業も▲11 から+6 へと改善するとみており、2極化の様相を呈している。

コロナ禍も収束の兆しを見せ、経済の活発化による業況改善の動きがある一方で、国際情勢や世界的な原油や原材料、輸送費の高騰、円安による価格高騰、販売価格への転嫁遅れなど不安定要素が重なり、業種や業態ごとに先の見通しが揺れ動いている状況が見て取れる。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は33%で、3ヵ月前の37%から4ポイント低下しており、設備投資意欲は足踏み状態となっている。業種別では、製造業が3ヵ月前の50%から今期は60%へ、卸売業が83%から50%と、今期の売上DIが+50を示すこれら2業種が設備投資を牽引する状況となっている様子うかがえる。その他、建設業29%から33%へ、サービス業が33%から29%へ、小売業が24%から17%となっている。

投資内容の割合は、「設備更新」が43%で最も多く、老朽化設備の入れ替えは必要と判断していると思われる。「合理化・省力化」については3ヵ月前の13%から今期は29%となったほか、「生産力増強」については、3ヵ月前の13%が今期は14%となり、計画案件については売上の回復が設備投資の前向きな検討に結び付いている様子うかがえる。

一方で、投資方針は、「計画通り」が3ヵ月前の52%が今期は63%となり、「景気により見直す」が39%から37%となり、景気の先行きを見据えて計画を進める姿勢もうかがえる。

MBA・中小企業診断士 松島 明男

(今の経済情勢に対する意見) 以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・ 将来を見すえ新規採用を考え募集したりしているが、コロナ第7波により売上、利益減少により、採用を延期、適正な人員が予測不能。(製造業)
- ・ 脱ガソリンに向けて頑張ります。(小売業)
- ・ 原材料の高騰と最低賃金の上昇が重くのしかかっている。この状況だから気付く事がある。自己の内面への思いかけで、明るい兆しにもなるし、絶望にもなるなと思います。
(小売業)
- ・ ネット販売の導入で一応の成果があり助かりましたが、夏季7、8月はネットでの販売が低く、又外売り、店舗販売がなく苦慮。秋以降に涼しくなるので営業活動に期待。この夏の暑さに夏バテ、営業が出来なかったことが要因で不振。(小売業)
- ・ 調査票では売上等が好転と記入しましたが、コロナ前と比べると、まだまだ売上は少ないです。対比が昨年となっているので好転していますが、借入れの返済も始まり不安は増しています。(サービス業)
- ・ コロナ感染の増加であるが、数字と市民の感情が一致していないのではないかと。良い方向に進んでいるものの、今後の税負担等が不安である。(サービス業)
- ・ コロナで利用客の減少が止まらない。(サービス業)
- ・ 予備的にコロナ融資を受けた一部事業者の中にはすでに完済する動きもあります。(据え置き条件から勘案すると)返済の小さな山は今夏、ピークは23年夏頃迎えるとみています。それまでの期間で収益基盤の強化やP L (損益計算書) 改善にいかにも有効活用するかが重要で時間との闘いでもあるとみています。(サービス業)
- ・ 材料費の上昇の波が押し寄せているが、デフレ感覚からインフレ感覚への切り替えがうまく進んでいないように思う。日本全体に将来の日本経済への悲壮感が漂っている。
(サービス業)
- ・ 今後の材料価格の上昇や設備機器の高騰に不安を感じている。(建設業)
- ・ 建築資材の価格上昇が止まらない、瓦は春と秋に2回も上がっている。(建設業)
- ・ ジャンルを問わず価格が高騰していて困ります。(建設業)

以 上

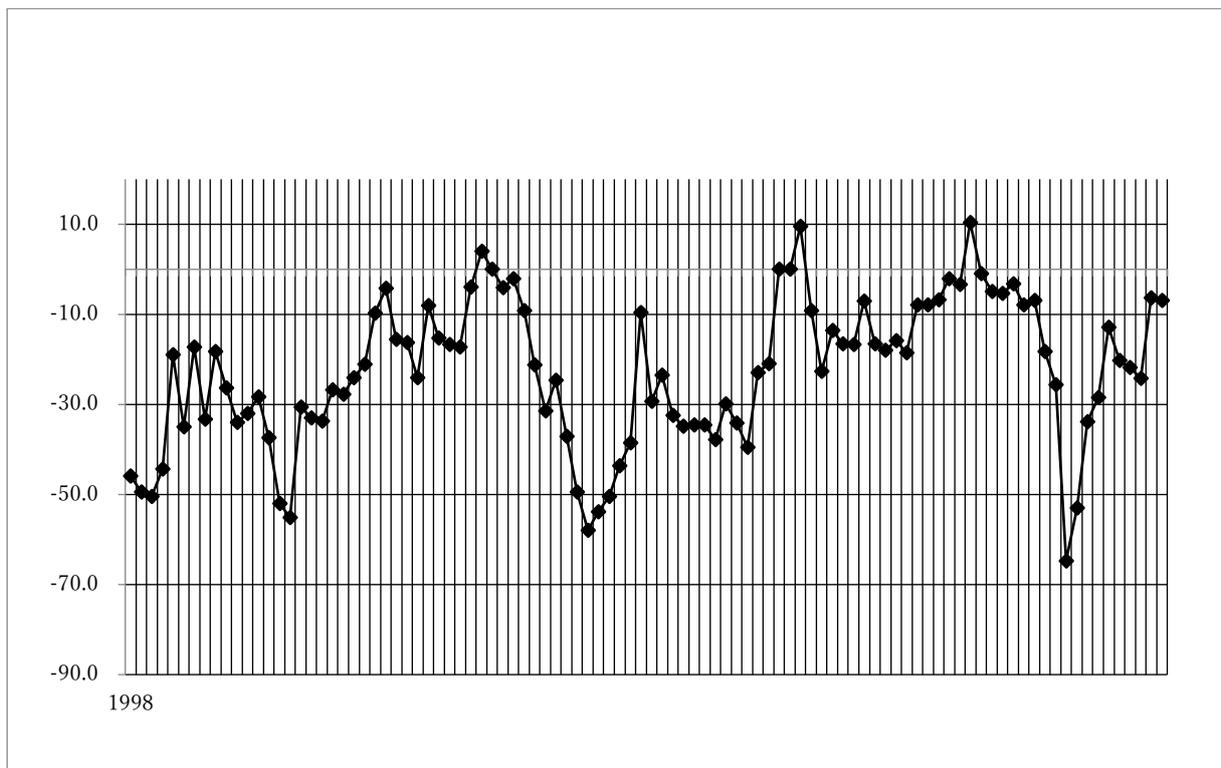
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	▲6.9	▲4.2	4.2	12.5	▲11.1	▲15.3
建 設 業	0.0	20.0	▲26.7	13.3	▲6.7	▲6.7
製 造 業	▲20.0	▲30.0	50.0	30.0	▲30.0	▲40.0
卸 売 業	0.0	▲12.5	50.0	50.0	▲12.5	▲12.5
小 売 業	▲11.1	5.6	▲5.6	11.1	▲11.1	▲5.6
サービス業	▲4.8	▲14.3	▲4.8	▲9.5	▲4.8	▲19.0
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	4.2	20.8	▲20.8	▲11.1	33.3	30.6
建 設 業	26.7	40.0	13.3	20.0	53.3	40.0
製 造 業	0.0	10.0	▲20.0	▲10.0	20.0	20.0
卸 売 業	0.0	37.5	▲25.0	▲12.5	65.5	50.0
小 売 業	▲5.6	16.7	▲27.8	▲16.7	11.1	11.1
サービス業	0.0	9.5	▲38.1	▲28.6	33.3	38.1
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し
全体	▲8.3	▲1.4	▲2.8	▲1.4	▲2.8	▲1.4
建設業	▲13.3	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0
製造業	▲30.0	▲30.0	▲10.0	▲10.0	0.0	0.0
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	▲11.1	5.6	▲11.1	▲11.1	▲11.1	▲11.1
サービス業	4.8	4.8	▲9.5	▲4.8	▲14.3	▲9.5
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>